

文章題テスト・説明文(2)

月 日
名 前

5
問正解

★次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

花が、たくさん咲いている季節には、女王ばちは、一日に、一、五〇〇個ぐらいの卵を昼も夜も産みつづけけます。計算してみると、一分間に一個のはやさで産むのです。

一、五〇〇個の卵の重さは、女王ばちの体重(二〇〇―三〇〇ミリグラム)と同じぐらいになるといわれています。

不思議なことに、一日に、いくつ、卵を産むかは、女王ばちがきめるものではありません。外で働く働きばち、つまり、季節の変化を知っている働きばちがきめるのです。

「もうすぐ春が来るから、卵を産ませよう」
「今、花ざかりだから、たくさん、卵を産ませよう」
「つゆになりそうだ。あまり産ませてはいけない」
「夏が近づいてきた。卵を産むのを止めさせよう」

きつとこんな話し合いが、働きばちのあいだでかわされるのでしよう。

□、女王ばちにつきそっている若い働きばちにつたえられます。

若い働きばちが、ローヤルゼリーを、多く食べさせると、女王ばちは、たくさん卵を産みます。少し食べさせると、少ししか、卵を産みません。

もし、花が咲いていない季節に、おおぜいの仲間が生まれてくると、みんないっしょに、うえ死にしようことを、みつばちは知っています。

私たち人間が、平和な生活を続けていくためには、食べ物と、人口との関係を、もっと、もっと、みつばちに教えてもらわねばなりません。

(大村 光良「みつばちの家族は50000びき」文研出版による)

(注) つゆ…夏の前の雨がふり続く季節

ローヤルゼリー…女王ばちが食べる栄養に富んだ食べ物

1 線のことをばを国語辞典で調べるとき、正しくひくことができる読み方はどれですか、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア じょうおう イ じょうおお ウ じょおう エ じょおお

「女」の音読みは「ジョ」。五十音の才段の長音(のばす音)は、「う」と書くのがきまりだが、「お」と書く場合もあるので注意する。通る(とおる)、遠い(とおい)、多い(おおい)、氷(こおり)など。

2 []に当てはまることばとしてもっともふさわしいものを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。前の文とのつながりを考えよう。

ア もし イ なぜなら ウ そして エ しかし

3 線「一日に、いくつ、卵を産むかは、女王ばちがきめるものではありません」とありますが、卵を産む数がどのようにきめられているのかを、次のようにまとめました。①、②に当てはまることばを、①は五字、②は三字で、それぞれ文中から書きぬきなさい。

卵を産む数は、外で働く働きばちが、①に合わせて決めています。たとえば、花があまり咲いていない時期は、②が少ないので、仲間がうえ死にしないように、卵を産む数をせいげんします。

① 季節の変化

② 食べ物

みつばちは、「食べ物」Ⅱ「花(のみつ)」の多い少ないに合わせて「人口」Ⅱ「卵を産む数」をきめているが、人間社会も、みつばちに見習うべきだというのが筆者の主張。

4 この文章の内容として当てはまらないものを、ア～エから一つ選んで、記号に○をつけなさい。

本文9行目からの、(へ)の部分に着目。春先から花ざかりにかけては卵の数をふやすが、つゆから夏にかけてはへらすことがわかる。ア「花ざかり」は「花のたくさん咲いている季節」と同じ意味。

ア 花ざかりの季節には、女王ばちは、一日中卵を産み続ける。

イ 女王ばちは、夏が近づくにつれて、産む卵の数をふやしていく。

ウ 若い働きばちは、女王ばちにつきそって、食事の世話をする。

エ 人間は、みつばちから平和な生活について学ぶべきである。